

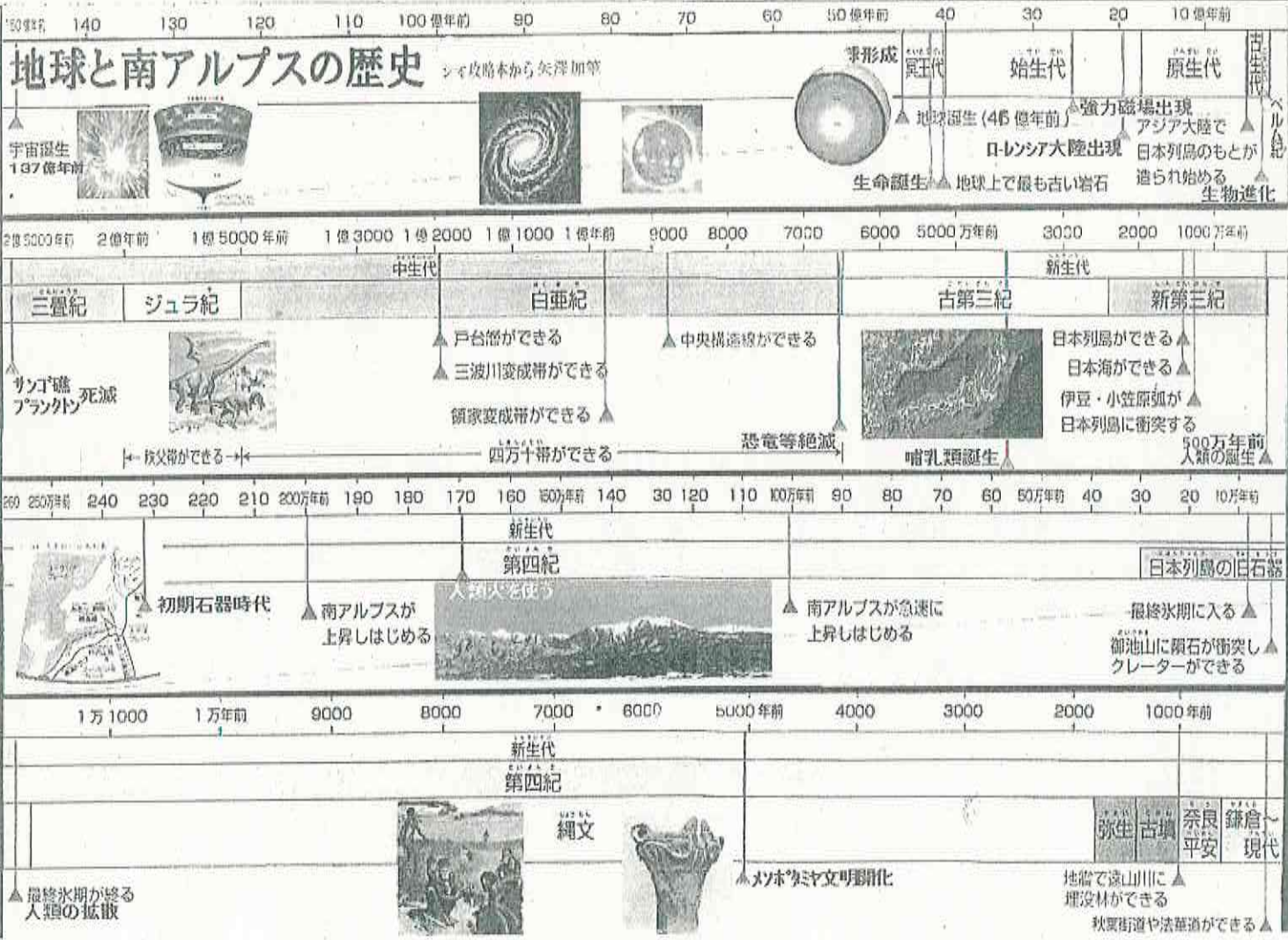
高遠町公民館講座  
南アルプスジオパーク

# 中央構造線北端

と

# フォッサマグナ

年6月19日



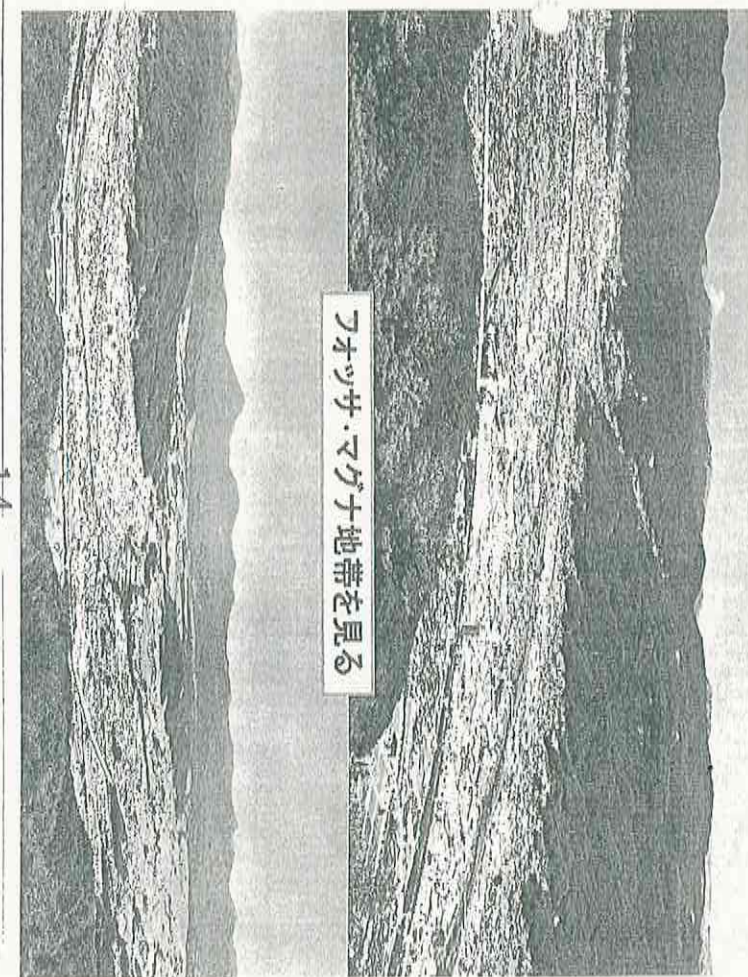




諏訪地区から伊那・杖突山を通る中央構造線



右図は茅野上原城址から見た杖突山方面



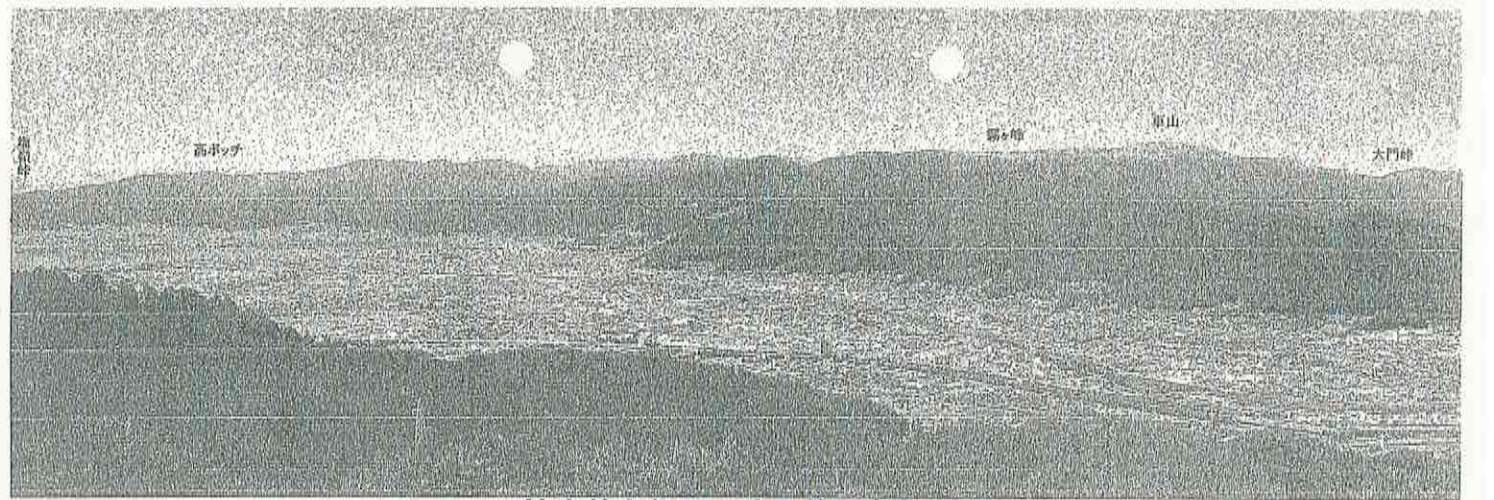
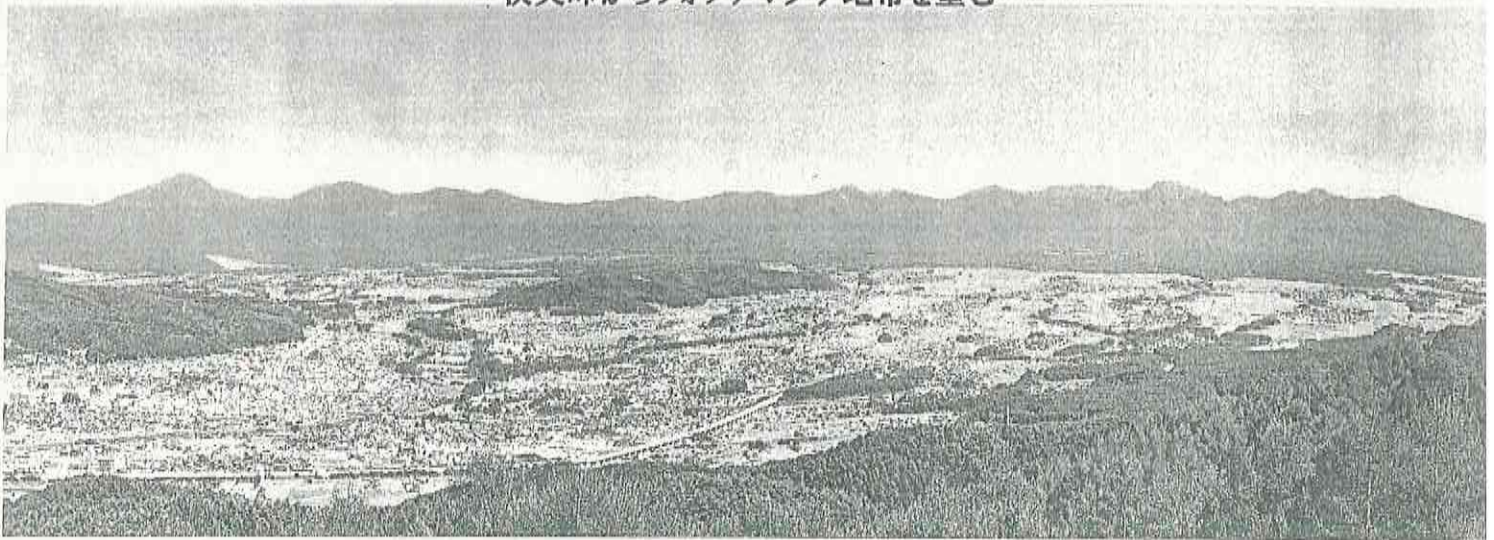
正木大輔博士の肖像  
明治18年(1885)米田大教授  
初代地質学教授・トウ出身

中央構造線とフオツサ・マクナ、糸魚川-静岡構造線とは全く別な物です。「マクナ」は本州中部の新潟県から静岡県を結ぶ大きな隆起地帯を見つければ、「フオツサ・マクナ」(ラテン語の大きな窪み)・(中央地帯帯)と名付けました。これは本州を「真ん中」で真っ二つに切り離しています。この「フオツサ・マクナ」はどの緯度にして形成されたかと言つて500万年位前に大陸から移動してきた日本列島へ、伊豆・小笠原島の北上による衝突が始まり、列島の真ん中に大きな地殻変動が起きて、南アルプスの山ができてきた。このため、今まで海であった中央部が海底から隆起して「諏訪湖」や「松本平」等をはじめ新潟地方並びに関東地方など現在の地形となった。この部分をフオツサ・マクナと呼ぶ。糸魚川-静岡構造線はフオツサ・マクナの「西の縁の断層」です。これは中央構造線より後にできた断層で、中央構造線を諏訪湖付近で横切っています。

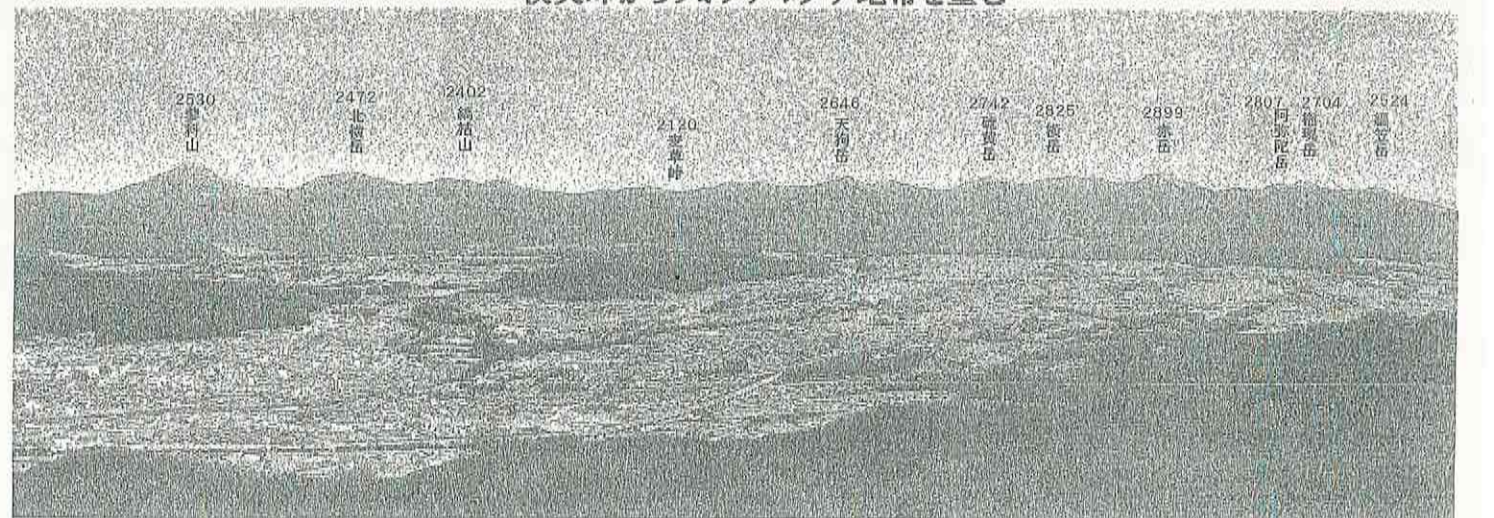
中央構造線(飯山段層)・室内飯より矢野加藤



杖突岬からフォッサマグナ地帯を望む



杖突岬からフォッサマグナ地帯を望む







伊那市長谷・溝口露頭



中央構造線

内帯

外帯

中央構造線部分には逆斜めが入り込んで固まっています

【地質用語の説明】

地質：石や岩や地層など地球の表面近くをつくっているものの種類や性質を表すことば。

地形：山や谷など地球の表面の形。

地層：土や砂などが幾重にもたまって層をなしているもの。多くは海底でできる。

断層：地層や岩が両側から力を受けて、割れ目ができてずれ動いた部分。

プレート：地球の表面を覆う厚さ 100 kmほどの岩盤のこと。十数枚に分かれている。

陸のプレートと海のプレートがある。海のプレートは海底火山でつくられて、水平へ移動している。陸のプレートの下へ沈み込んで消えていく。

付加体：陸のプレートの下へ海側のプレートが沈みこむとき、海のプレートの上にあるものが陸のプレートの端に寄せ集められて、陸地につけ加わったもの。

緑色岩：海底の火山から噴火してできた溶岩が、火山近くの熱水の影響を受けたり、プレートの沈み込みとともに地下深くへもぐりこんで高温高压の影響を受けたりして、緑色の石に変わったもの。

蛇紋岩：地球内部のマントルという所にあるかんらん岩という石が、水が加わることで変わってきた石。深緑色や黄緑色をしていて、さわるとうすべししている。

砂岩：川から海へ流れていった砂粒が海底でかたまっただけになったもの。灰色をしていて硬い。

泥岩：川から海へ流れていった泥が海底でかたまっただけになったもの。黒色をしていて硬い。

チャート：海にすむプランクトンの殻が石になったもの。このプランクトンは放射虫といわれて、石英質の殻をもっている。チャートは灰色、白色、赤色、黒色のものがある。とても硬く、昔は火打石として使われていた。

石灰岩：海にすむプランクトンの殻やサンゴが石になったもの。プランクトンには有孔虫やユリカサなどで石灰質の殻をもっている。石灰岩は白や灰色の石で軟らかく、アスファルトに白い線がひける。

花崗岩：地下でマグマが冷えて固まってきた石。白いごま塩の石で硬い。石材に多く使われる。中央アルプスの山々はみな花崗岩でできている。

ホルンフェルス：砂岩や泥岩などの石がマグマの高温の影響を受けて変わってきた石。硬くて角ばって割れたため、角を意味するホルンからこの名前がある。